



シャンパニユ。馬房では大人しいんですけどね(苦笑)

小島友実の あの馬の STORY



シャンパニユ

明けましておめでたしのいわくおお。今年は牛年! 競馬の仕事を始めた頃にしてこの馬として、少しでもお役に立て情報をお伝えできるもので、今年も頑張りたいと思っております。いつもよろしくお願ひ申し上げます。

といつ事でこんな情報からお伝えおしあつ。最近、チチカステナン「産駒が好調なんですよ。日本で種付けされ初年度産駒ガーディ」アーチした2012年は計5勝でしたが、13年は28勝(12月15日現在、データのみ)と大幅に勝ち鞍を伸ばしてます。グリーンファームでも現3歳世代は3頭のチチカス産駒がいますが、その内2頭が勝ち上がり、その1頭が今回の主役シャンパー(コ)です。

実はこの馬。一昨年、私が1歳馬募集の取材で社台ブルーグラブファームへ行つた時、吉田哲哉さんから挙げて頂いた牡馬オスマメ(頭の一頭なことです)よ。この時に哲哉さんは「伸びがあつい馬体をしてる。仕上がりも早く伸びだね」と高評価だったのです。

その言葉通りに育成も順調に進み、去年7月に栗東の加用正厩舎へ入厩。加用師はいつも振り返ります。

「入厩後の調教ではこの馬と併せても負けた事がなかつたから、いい物を持てると感じたよね。調教する度にじぶじぶ跟くから、馬房では大人しくて」と語ります。

「ヒューバー」の日の小倉戦。この日は雨模様で加用師は松山弘平騎手にて、「馬場も重だし、一番枠だから行けたらいひで」と指示。レースでハナに立ったシャンパー(コ)は逃げに持ち込み、終わつみれば4馬身差の圧勝でデビュー勝ちを収めたのでした。

しかしレースを経験した事で、ある変化が出てきてしまったのです。

「小倉戦は早め入厩の滞在競馬で大人しかつたけど、栗東へ戻つてから馬のテンションが高まるようになつてしまつたんですね。そんな所が、戦田以降、影響してくるのかなと思つますね」

2戦目の野路菊(3着)、3戦目の萩(3着)共にスタートダッシュがつかず後方からの競馬で5着、4着。そこで陣営は3戦目の後にゲート練習を施しました。

「ゲートで縛り、駐立させた練習をして、実際に効果を感じてみたいだけ(4戦目)京都で3歳のでも駐立が上手く行かず、トキを滑り出すような感じでスタートしちしました。結局、最後に良い脚を使つて3着となりました。データでから4戦全てで掲示板に乗つているのだから、能力は高いです。

よ。だから課題は「ハンドリングが落ち着いて、ゲートを決める力」なる事でしょ。競馬場の装鞍所に行くとスイッチが入つてしまつて、馬房では大人しくて」と語ります。

確かに、馬房で食べたシャンパー(コ)はのんびりと飼葉を食み、穏やかな男のやじつた印象。加用師も「段々、環境や競馬に慣れていけば、落ち着いていくと想つます。馬体もわざと近くなる印象ですね」と語っています。

次走は中山のホープフルステークスが予定されていてシャンパー(コ)にはにはどんな期待も込められています。

「毎日賞がある中山を、慣らす意味で一度経験させたいんです。いつこういったときに、そんな所が、戦田以降、性格の馬だから色々な所へ連れていってくれるのも必要だと思つてね。グリーンファームの河野二郎社長とは私が開業した頃からお付き合いさせて頂つて、古くは那須野牧場生産馬のワイングレス(4勝)や、その子供のナスクスワード(6勝)。そしてグリーンファームの馬ではキップアンドライド(4勝)やブリゴッド(2勝)、スマーマジック(3勝)など毎年良い馬を産んでもらひたいですね。このシャンパー(コ)も皆さんとの期待に応えられるだけの器を持つた馬だと感じてこまち。でわから、3歳のクラシック路線で頑張つてしまつと思つてますよ」

2022年に急逝したチチカステナン(コ)が日本に残した産駒はたつたの3世代。シャンパー(コ)がその代表産駒になる事を期待しています。

profile

グリーンチャンネル「トラックマンTV」(毎週金曜19:00~20:30)、ラジオNIKKI「中央競馬実況中継」ほか競馬ファンには馴染みの顔。平日は地方競馬、週末は中央競馬、そしてプライベートでも競馬三昧の日々を送る。本業のアナウンスのほかにも、競馬ブックのコラム「小島友実の好奇心keiba それいけ現場」の連載など活躍の場を広げている。